

## 2022 年度 JICA ベトナム事務所事業報告

2022 年 6 月

みなさま、こんにちは。JICA ベトナム事務所長の清水です。早いもので私が当地に着任してから 2 年が経ちました。着任時の 2020 年は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により社会活動が大きく制限され、JICA 事業のみならず自由な外出すらままならない日々が続きました。しかし、現在はほぼ通常の生活に戻ることができており、改めて人類の順応性と対応力に驚きと感動を覚えます。他方、感染症の残した爪痕は深く、コロナ対策が成功したベトナムにおいても多くの方が亡くなり、サービス業を中心に経済的損失も発生しました。我々はベトナムが早期に回復し、成長軌道に戻る為、引続き保健分野含むセーフティネットの拡充と経済発展に注力して、協力を行っていきます。



今回ご報告するのは、昨年 10 月、メディアの皆さま向けにオンラインで実施した、JICA ベトナム事務所事業報告会以降の 2021 年度下半期の実績及び、2022 年度上半期の見通しになります。

まず保健分野において、前回報告会でもご紹介した UNICEF と連携したワクチン輸送用コールドチェーン機材の供与、IOM と連携した国境隣接地域における感染症の調査・予防機材の供与、フエ中央病院への感染症重症患者用医療機材整備といった、新型コロナウイルス感染症対策の協力が、予定通り完了しました。

さらに、ホーチミンパスツール研究所のバイオセーフティ・レベル 3 実験室が 2022 年 1 月に完成、チョーライ病院やライチャウ省へも ECMO やワクチン輸送用コールドチェーン機材を供与する等、ベトナムにおける感染症との戦いを全面的にバックアップしました。22 年度も引続き、バックマイ病院への医療機材供与等を通じた中核病院の能力強化に加え、医療機材管理の為の法整備に対する協力等、ベトナムの保健システムの強化を包括的に支えています。

経済成長に関しては、日越両国の関心が最も高いホーチミンメトロの全車両が日本から到着し、開通に向けて工事が着々と進められています。また 21 年 5 月に融資を決定したクアンチ省陸上風力発電事業が、同年 10 月末に完工・商業運転を開始しており、ベトナム政府が推進するカーボンニュートラルなエネルギー供給も後押ししていきます。

成長の基盤となる人材育成に関しても、日越大学の卒業生がのべ 260 名となり、新たに学部生 138 名が入学しました。また、各種留学プログラムを通じて、本邦大学の修士・博士課程で 162 名が就学中、22 年度中に追加で 35 名が就学予定です。

JICA 海外協力隊も 21 年度下半期に 10 名赴任済み、22 年度上半期にさらに 10 名赴任予定と、ベトナムは世界に先駆けてコロナ前の水準（40 名派遣）に戻りつつあり、草の根レベルでの協力にもさらに注力していきます。

最後に特筆すべき事項として、第 17 回 JICA 理事長賞が、新型コロナウイルス感染症対策で中心的な役割を担ったバックマイ病院、フエ中央病院、チョーライ病院の 3 つの中核病院と、災害に強いイネの開発に成功したベトナム国立農業大学（九州大学、名古屋大学

と共同受賞)に授与されました。これはこれまでの JICA とベトナム・日本両国関係機関による協力の賜物であり、世界中で実施されている JICA プロジェクトの数千の関係者から、ベトナムの関係機関が選ばれた事は我々にとっても誇りです。

2021 年 11 月のファン・ミン・チン首相訪日、2022 年 4 月の岸田総理訪越と、両国の関係はますます強固になっており、2023 年の日越外交関係樹立 50 周年にむけて、我々も一層の日越友好に貢献すべく、協力を進めています。引続きみなさまにご理解・ご協力頂ける JICA 事業を目指し、尽力してまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。

JICA ベトナム事務所長  
清水 暁